



上記の地図、東京を東西南北、電車と地下鉄を乗り継ぎ歩いた。東京の地下鉄は1階、2階、3階まであり、階段とエスカレーターを利用して、その地下道をひたすら歩いた。

① ほうせんかの家を訪ねて、語り継ぐ人々に会う。

荒川の土手は広く緑色で静けさに満ちていた。空はうす曇りで灰色だった。今年も関東大震災101年目の追悼式が行われたそうだ。虐殺された朝鮮人を追悼し続ける人々。当時朝鮮人をかくまった日本人が居たと聞いた。広大な緑と空のうす墨色が私の悲しみを一層深くした。

② 原爆の凶丸木美術館を訪ねて

館内は墨色の世界だった。私は重く、身体をしめつけられるような感覚になり、ここでも言葉を失った。最後の室で丸木位里氏のお母様が描かれた絵を見た時は現実に戻された様に感じた。

墨色の灰色の世界は広島で起きた現実なのだ。館内を出ると緑が広がって静かだ。その緑の中に「痛恨の碑」がある。虐殺された朝鮮人を悼んで、青みがかったその石は形が少しだけよじれている。それが暖かみさえ感じられて抱きしめたくなる。

③ 高麗博物館を訪ねて

博物館は東京コリアタウン近くのビルのひと室にあった。

ここで「笹の墓標」に再会した。ドキュメンタリー映画で9時間9分の映画だ。このドキュメンタリー映画では日本人、在日韓国人による共同作業15年の歩みがあった。権力は都合の悪い歴史を葬り去ろうとする。それに抗い語り継ぐ人々がいる。

④ 第5福竜丸展示館を訪ねて

ゴミの埋立場所に捨てられ、それを知った人々によって展示館が建てられた。そこにこの木造船は「私は生きている」と言わんばかりの存在感がある。実際、木は長い年月を経て白っぽくなっていた。私には、生きて何か言っているように思う。

語り継ぐ人々に連なり、私も語り継ぐ人になれる。誰もそうなれると、各々の場所で人と語り合うことは出来る。そんな慰霊の旅になった3日間。

企画、案内して下さった川口重雄様へ心よりありがとうございました。

(参加者から)